

# 農業技術情報

令和5年6月1日  
池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター  
十勝東部支所 015-572-3128  
JA十勝池田町 572-3131  
高島支所 573-2111  
池田町産業振興課 572-3118

農作物の生育・作業の遅速(6月1日現在) ( )内は平年値 移植てん菜のみ3町平年値の平均

作物名	遅速日数	生育状況		農作業状況
秋まき小麦	+3	草丈 59.3 (59.9)cm 茎数 955 (1,018)本/m <sup>2</sup>	出穂始 5/30 (6/2) 出穂期 6/2 (6/5)	
ばれいしょ	-2	茎長 2.3 (4.5) 茎数 1.0 (1.9)	萌芽期 5/30 (5/28)	
大豆	-	茎長 5.1 (9.4) 葉数 0.5 (1.0)	出芽期 5/30 (5/29)	は種期 5/15 (5/16) は種終 5/17 (5/18)
小豆	-		出芽始 5/30 (6/1)	は種期 5/20 (5/21) は種終 5/24 (5/25)
菜豆(金時)	-		出芽始 (6/6)	は種期 5/26 (5/28) は種終 (6/3)
菜豆(手亡)	-		出芽始 (6/3)	は種期 5/24 (5/24) は種終 5/30 (5/30)
てん菜(移植)	-	草丈 8.9 (13.7)cm 葉数 9.5 (11.0)枚		
てん菜(直播)	+2	草丈 9.5 (8.0)cm 葉数 6.4 (5.4)枚		
牧草	+2	草丈 69.5 (67.5)cm		
サイレージ用 とうもろこし	+1	草丈 8.5 (9.0)cm 出葉数 2.7 (2.7)枚	出芽期 5/24 (5/25)	は種期 5/15 (5/15) は種終 5/20 (5/23)
たまねぎ	+2	草丈 14.7 (11.5)cm 生葉数 1.8 (1.5)枚		

## 畑作

### <秋まき小麦>

出穂は平年に比べ早いので、病害虫防除等のスケジュールは計画的に実施してください。

茎数は平年よりやや多いため、倒伏の恐れのあるほ場もあります。  
ほ場をよく観察し施肥管理に注意してください。

#### (1) 赤かび病の防除

赤かび病は開花時期に最も感染しやすく、多湿条件で多発します。出穂揃からの予防的防除が重要です。

1回目の適期はほとんどの穂が穂首まで出た開花始期（図1参照）ですが、開花始に雨天の恐れがある場合は、出穂揃から防除しましょう。

ほ場内に生育ムラがあり、生育が早い部分に合わせて1回目の防除（出穂揃）を実施した場合は、生育が遅い部分や、既に使用した薬剤の使用回数等を考慮し、2回目以降も適切な防除を実施してください。

出穂後に雨天が続く場合は防除間隔を7日以内とすることも検討してください。



図1 赤かび病の1回目防除時期

表1 赤かび病防除体系例

回数	農薬名	使用倍率	使用時期 (収穫前)	回数 (出穂期以降)
1回目 (出穂揃い期)	バラライカ水和剤	500倍	14日	2回以内
2回目 (1回目の7日後)	ベフトップジンFL または ミラビスFL	800~1,000倍	14日	1回以内
		1,500倍	7日	2回以内
3回目 (2回目の7~10日後)	シルバキュアFL	2,000倍	7日	2回以内
臨機	チルト乳剤25	1,000~2,000倍	3日	3回以内 (春期以降)

※チルト乳剤は、他作物に薬害が生じる可能性があるため飛散に注意しましょう。

表2 小麦の各薬剤の防除効果（令和5年度北海道病害虫・雑草防除ガイド）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 (収穫前)	赤さび病	赤かび病	菌別効果	
						DON 濃度低減	ニバーレ
シルバキュアフロアブル	DMI	2,000	7日前	●	●	●	
チルト乳剤25	DMI	1,000	3日前	○	●		
		2,000		●	●		
リペロ水和剤	DMI	2,000	7日前	●	●	●	
プロラインフロアブル	DMI	2,000	21日前	●	●	●	●
ベフトップジンフロアブル	ビスグアニジン MBC	800~1,000	14日前		●	●	●
ペフラン液剤25	ビスグアニジン	1,000~2,000	14日前		●		
		1,000				●	●
トップジンM水和剤	MBC	1,500	14日前		●	●	
ブライア水和剤	N-フェニルカーバメート	1,000	21日前		●	●	●
	MBC	1,500			●		●
パラライカ水和剤	DMI・フタルイミド	500	14日前	●	●	●	●
ミラビスフロアブル	SDHI	1,500	7日前	○	●	●	●

注) DMIの多用は避けましょう

●:北海道指導参考 ○:登録あり

## (2) アブラムシ類の防除

ほ場を十分に確認して、薬剤防除の要否を検討しましょう。

### 【要防除水準】

アブラムシ：出穂 10 日後頃に半分以上の穂でアブラムシが観察される場合のみ、1 回防除が必要。

表3 アブラムシ類防除例

害虫名	農薬名	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
アブラムシ類	アドマイヤー 顆粒水和剤	15,000	14日	2回
	スミチオン乳剤	1,000	7日	1回
	ウララDF	4,000	7日	2回
	ペイオフME液剤	2,000	7日	2回

## <てんさい>

ほ場の透水性向上を図る中耕作業や雑草対策を行いましょう。

### (1) 中耕

ア 土壌の膨軟化と地温の上昇及び透水性の改善と畦間の除草のため、「カルチ」や「畦間サブソイラ」などを早期に施工し、初期生育の促進に努めましょう。

イ 中耕の深さは、根の広がりを確認し生育初期には浅めに、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期まで実施しましょう。

ウ 中耕時、株元まで土を寄せると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

## (2) 除草剤散布

ア 除草剤散布のポイントは適期処理にあります。気象条件や土壌水分等を考慮し、生育と雑草の発生に応じた処理に注意してください。

イ 直播栽培は移植栽培と登録基準が異なる薬剤があるので注意しましょう。

ウ 直播栽培の初回散布時期は雑草発生始～発生揃（てんさい本葉2葉期）で、は種後30日前後が目安になります。てんさいの葉齢が進んでいない幼小個体では、生育が抑制される場合があるため注意が必要です。

エ 直播栽培の風害対策でえん麦を混植した場合は、えん麦の**4葉期までに遅れない**ようにイネ科除草剤（ナブ乳剤）による処理を行ってください。

## (3) アブラムシの防除

アブラムシ類防除は早期に発生させないことが重要で、初期防除が大切です。苗床かん注剤および直播ペレット種子内殺虫剤の残効期間は約40～45日程度です。アブラムシの飛び込みの多いようなほ場では防除を実施しましょう。

## (4) 根腐病防除の実施

根腐病は6月中旬頃から発生します。

連作や短期輪作ほ場などで多発が予想されるほ場は、6月中旬と7月中旬の2回防除を実施しましょう。

表4 根腐病の防除薬剤例(株元散布)

薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数(以内)
リンバー顆粒水和剤	4,000	7日	3回
モンセレン顆粒水和剤	1,000	30日	4回(育苗中含む)

## <ばれいしょ>

萌芽期は、降雨による植付け作業の遅れの関係で2日ほど遅れています。  
適期作業をこころがけましょう。

### (1) 疫病の防除

天候を確認しながら早めの予防防除を心がけましょう。

ばれいしょ疫病は平均気温 10℃以上（最適気温 18～20℃）の多湿条件で多発します。特に、生育が過繁茂気味のところ（風通しが悪い・山あい・防風林の影）で発生しやすいので注意が必要です。ほ場をよく観察し予防防除に努めてください。

- ア 初発前に必ず防除：ほ場をよく観察し、基本は予防防除に努めてください。
- イ 初回の防除前に感染が疑われる場合：治療効果のある薬剤を使用。
- ウ 作物の生育に応じた薬剤選択：茎葉の生長段階では浸透移行性のある薬剤を使用。
- エ 降雨に応じた薬剤選択：ほ場に入れたい状況が予想される場合は、Wインターバル（14 日間隔）効果のある薬剤※の使用を検討してください。実施する場合は、初発前から散布してください。

※「リライアブルフロアブル 800 倍」、「プロポーズ顆粒水和剤 750 倍」、「ライメイフロアブル 2,000 倍」、「レーバスフロアブル 1,500 倍」、「ランマンフロアブル 1,000 倍」、「フロンサイドSC 1,500 倍」（平成 25 年度指導参考）。

表5 疫病の防除(例)

防除時期	薬剤名	使用濃度	収穫前日数	使用回数
6月下旬	グリーンダイセンM水和剤	500倍	7日前	10
7月上旬	ゾーベックエンカンティアSE	2,000倍	14日前	3
	または レーバスフロアブル	1,500倍	7日前	2

### (2) アブラムシ・ナストビハムシの防除

ほ場をよく観察し、発生が確認されたら防除を実施しましょう。

表6 アブラムシ・ナストビハムシの防除(例)

薬剤名	使用濃度	収穫前日数	使用回数
ゲットアウトWDG	3,000倍	7日前	4

## <豆類>

は種作業は大豆、小豆、手亡は順調に終了しましたが、金時類は平年並みに進んでいます。除草剤と病虫害防除の散布時期に注意してください。

### (1) 除草剤の散布

豆類の生育や雑草の発生状況を確認し効果的な散布に心がけましょう。

「パワーガイザー液剤」は有機リン系殺虫剤や他の除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので避けましょう。

表7 除草剤の使用基準(例)

農薬名	処理方法 使用時期	対象作物	10a あたり 使用量	回数	主な対象雑草の効果						
					シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	ナギナタ コウジュ	スカシタ ゴボウ	一年生イネ科
パワーガイ ザー液剤	土壌処理兼 雑草処理	大豆 小豆 菜豆	200~ 300ml	1	◎	◎	◎	×	△	◎	△
	大豆・小豆： 出芽直前～出芽揃 菜豆： 出芽直前～出芽期										
バサグラン 液剤	雑草処理	菜豆	50~ 70ml	1	◎	◎	◎	△	○	◎	×
	初生葉展開期～ 本葉抽出始期 (雑草2～3葉期)										

### (2) 中耕

除草剤の残効を考慮し、地温の上昇と雑草減少のため中耕を実施しましょう。雑草減少のための中耕は、日中の暖かい日が効果的です。

### (3) 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

クルーザーを使用している場合、は種後1ヶ月をめどに防除を行いましょう。ほ場をよく観察して、適切な防除を実施しましょう。

表8 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

薬剤名	使用濃度	使用時期(収穫前)	回数(以内)
ペイオフME液剤	2,000倍	7日	3回
ウララDF	2,000~4,000倍	7日	2回

# 野菜

乾燥条件が続いており、除草剤のタイミングも難しかったかと思われます。高温乾燥条件が続くとネギアザミウマやハダニ類の発生も懸念されますので、発生に注意してください。発生を確認したら速やかに防除をしてください。

## < ヤマノイモ >

### (1) マルチ栽培での芽やけ対策(スリットからの芽出し)

ほ場の見回りをこまめに行い、マルチのスリット部に芽が引っ掛かっているものは速やかに出して、芽やけ(高温障害)を防ぎましょう。

## < たまねぎ >

### (1) ネギアザミウマ・タマネギバエの防除について

5月下旬は気温の高い日が多く、すでにネギアザミウマが発生しております。発生量を増やさないために、初発頃の防除が重要となりますので、ほ場を確認しながら必要に応じた防除を実施してください。

表1 たまねぎ害虫の防除薬剤例(イスクリーン基準より)

防除時期	薬剤名	対象害虫	使用濃度	使用時期	使用回数	成分回数	備考
6月下旬	トクチオン乳剤	ネギアザミウマ	1,000倍	収穫7日前	4回以内	1回	—
7月上旬	ディアナSC	ネギアザミウマ	2,500~5,000倍	収穫前日	2回以内	1回	—
(臨機)	ダイアジノン乳剤40	タマネギバエ	700倍	収穫21日前	2回以内	1回	700~1,200倍でネギアザミウマに登録あり

### (2) 白斑葉枯病・べと病の発生初期の防除

#### ○白斑葉枯病

平年の初発は6月中旬です。初発を確認次第できるだけ早く(初発の5日以内)防除しましょう。白斑葉枯病は2日以上連続した降雨、または10mm以上のまとまった降雨後7日間、特に平均気温18℃以上の温暖な日に初発の可能性が高くなります。

#### ○べと病

べと病は気温が20℃以下で、高湿度条件が続くと発生しやすくなります。発病後は蔓延が早いことから、発生しやすい場合は予防防除を徹底してください。発生後は臨機防除でリドミルゴールドMZを使用してください

表2 たまねぎ白斑葉枯病・べと病の防除例(イスクリーン基準より)

防除時期	薬剤名	使用濃度	使用時期	使用回数	白斑葉枯病	べと病	効果の発現	成分回数
6/中(移植)	フロンサイドSC	1,000~2,000倍	収穫3日前	5回以内	○		予防	1
(臨機)	グリーンダイセンM水和剤	400~600倍	収穫3日前	5回以内	○	○	予防	1
(臨機)	リドミルゴールドMZ水和剤	1000倍	収穫7日前	3回以内		○	予治	2

## (2)分肥

分肥(窒素量:基肥、分肥合わせて13kg/10a以下)を考えている場合は、移植たまねぎで移植後4週目(平成28年指導参考)、直播たまねぎでは種後8週目(令和元年指導参考)が効果的です。

過度な施肥は分球や軟腐病の多発や品質低下にもつながるので計画的に実施してください。

## < にんにく >

### (1)摘蕾

トウ立ちが始まったら、玉の肥大を促すために摘蕾を行ってください。摘蕾の目安は止葉と花蕾(トウ)の高さが同じくらいになった時です。

### (2)病害虫の防除

ネギコガが畦沿いに発生しているほ場があります。ネギアザミウマも初発となっております。ほ場を確認し、防除を実施してください。

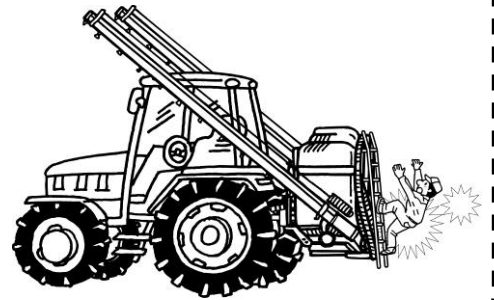
葉枯病は雨が多く、温度が高い時に発生が多くなり、肥料切れなど草勢が衰えた時に発生しやすくなります。ほ場を観察し、初期防除を心がけてください。

表3 にんにくの防除薬剤例

薬剤名	使用濃度	使用時期	使用回数	アザミウマ類	ネギコガ	葉枯病
オルトラン水和剤	1,000倍	収穫7日前	2回以内		○	
ハチハチ乳剤	1000倍	収穫7日前	2回以内	○	○	
ダコニール1000	1000倍	収穫7日前	6回以内			○

## 周辺作物への飛散(ドリフト)防止の徹底と農作業安全

- ・作物の成長も進み、農薬散布の機会が増える時期です。農薬散布に際しては風向きに注意し、周辺作物への飛散防止に努めてください。
- ・農薬を使用するときは、必ずラベルの安全使用基準や注意事項を確認しましょう。
- ・農薬は必ず保管庫にしまい、カギをかけましょう。
- ・使用した農薬容器や袋は、適切に処理しましょう。
- ・農薬散布の際は、マスク、防除衣、ゴム手袋、帽子、防除用メガネ、長靴、肌を覆うタオルを身につけ、しっかり安全対策をとりましょう。
- ・作業機連結時の挟まれ事故、機械昇降時の落下事故に十分注意しましょう。



※薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

※薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。